

ロ・BASF
We create chemistry



省力化を加速!

ドローン・乗用管理機などで少水量散布もできる

水稲用中後期除草剤

バサグラン・スカイTM 液剤



クログワイ※



ホタルイ



ミズガヤツリ



オモダカ※



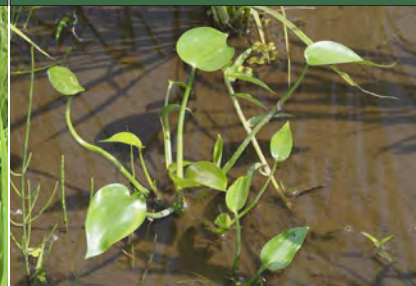
ウリカワ



ヘラオモダカ※



ヒレタゴボウ



コナギ

※移植水稲のみの登録

バサグラン・スカイTM 液剤

農林水産省登録：第 25010 号
有効成分：ペンタゾンナトリウム塩（ペンタゾン）44.0%
人畜毒性：普通物※
※毒劇物に該当しないものを指している通称

除草剤分類

6

【適用雑草と使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ペンタゾンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稻	一年生雑草（イネ科を除く）、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ	移植後 15 日～収穫 45 日前まで	500mℓ / 10a	25~100 ℓ / 10a	2 回以内	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2 回以内
				1.6~5 ℓ / 10a		落水又はごく浅く湛水して無人航空機による散布	
直播水稻	一年生雑草（イネ科を除く）、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ	は種後 35 日～収穫 45 日前まで	500mℓ / 10a	25~100 ℓ / 10a	2 回以内	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2 回以内
				1.6~5 ℓ / 10a		乾田・落水状態で無人航空機による散布	

バサグラン・スカイ液剤 移植水稻 効果・薬害試験（ドローン散布）

コナギに対する効果

薬量	希釈水量	除草効果 (%)
500mℓ / 10a	水量: 1.6ℓ / 10a	97
500mℓ / 10a	水量: 5ℓ / 10a	100
500mℓ / 10a	水量: 100ℓ / 10a	100

■社内試験概要
試験場所：BASF ジャパン株式会社 千葉県山武市ほ場
移植日：2025 年 5 月 26 日
処理日：2025 年 7 月 18 日
処理時葉齢：コナギ 心形葉 6 枚・移植水稻 第 7 分げつ

■処理方法

処理区	①	②	③
供試除草剤	バサグラン・スカイ TM 液剤		
処理方法	落水処理	落水処理	落水処理
薬量	500mℓ / 10a	500mℓ / 10a	500mℓ / 10a
水量	1.6ℓ / 10a	5ℓ / 10a	100ℓ / 10a
散布器	ドローン T-25	ドローン T-25	肩掛け動力噴霧器

■処理区①②：散布粒径：360μm/ 後方 2ノズルで散布
飛行速度：15km/h 高度：3m 風速 3m/s 以下

■調査日時：2025 年 8 月 7 日（処理 20 日後）

■試験結果：バサグラン・スカイ 1.6ℓ / 10a、5ℓ / 10a、ドローン散布 (T-25) は、同剤・100ℓ / 10a 肩掛け動力噴霧器散布とほぼ同等の高い効果であった。薬害は、いずれの処理区も認められなかった。

POINT 上手に使うポイント

雑草に、
しっかりムラなく
散布してください

展着剤の
加用は必要
ありません

無人航空機による散布は、
無人ヘリの使用は避けて
ドローンを使用

飛散
(ドリフト)
に注意
する。

効果・薬害等の注意

- 散布液は使用当日に調製する。
- 本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定するため、下記について特に注意する。
 - 落水状態（足跡に水が残っている状態）にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布する。
 - 水を落とすことができるようなところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態（雑草が水面上に出る状態）にしてまきむらのないように均一に散布する。
 - 散布後少なくとも 3 日間（浅水処理は 5 日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。また、散布後 7 日間は降雨の有無にかかわらず落水しない。
 - 処理後 2 日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。
 - 深水にすると効果が劣るので注意する。
- 無人航空機による散布では、次の注意を必ず守る。
 - 無人マルチローター（ドローン）にて使用する。
 - 無人ヘリコプターの使用をさける。
 - 散布は散布機種の散布基準に従って実施する。
 - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用する。
 - 高濃度において散布する場合、沈殿物が生じる場合があるので薬剤調製後は速やかに散布する。

- 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行う。
- 薬剤散布に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。
- 住宅地、水源地、飲料用水等に影響を与えないよう散布区域を選定し、周辺の諸作物に本剤が飛散、流入しないよう十分注意する。
- 周辺に水稲以外の作物が栽培されている場合は、飛散によって薬害が生じるおそれがあるため無人航空機による本剤の散布は行わない。
- 散布に当たっては、飛散低減ノズルを使用する。
- イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生雑草及び一年生広葉雑草の防除を目的として使用する。
- 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布する。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から発生前期まで、クログワイでは草丈 30～40cm、エゾノサヤヌカグサでは 2～4 葉期、シズイでは草丈 20～30cm が本剤散布の適期である。
- オモダカクログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
- 重複散布は薬害のおそれがあるため、また周辺作物にからないように注意する。
- 砂質土及び漏水のはげしい水田では使用しない。（減水深 2cm/ 日以上）
- 軟弱苗では薬害（接触害）のおそれがあるので使用はさける。
- 高温条件下では薬害が生じやすいので、異常高温下での使用をさける。

- 高温など薬害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稲にからないように散布する。
- 少量散布 (25~50ℓ / 10a) には専用ノズルを使用する。
- 使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 誤飲に注意。
- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。（刺激性）
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意。

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。
無人航空機による散布を使用する場合は、河川・養魚池等に飛散しないよう特に注意する。

【保管】密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な場所に保管。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器はほ場などに放置せず、3 回以上水洗し、適切に処理をしてください。●防除日誌を記載しましょう。

BASF ジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 3 丁目 4 番 4 号 OVOL 日本橋ビル 3 階

☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>

詳細や SDS は WEB で
ご覧いただけます。



本資料は 2026 年 2 月の知見に基づいて作成されています。

BASF-0884 202602